

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 5月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2277101685
法人名	(有)川井ライフプランニング
事業所名	グループホーム ゆずりは
所在地 (電話番号)	静岡県浜松市中区早出町1355-6 053-461-5381
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年2月16日

## 【情報提供票より】(平成20年 01月 31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 05月 01日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 9人, 非常勤 5人, 常勤換算 12.0人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~33,000円	その他の経費(月額)	13,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 90,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300円	昼食 400円
	夕食	600円	おやつ 200円
	または1日当たり 1,500円		

### (4) 利用者の概要(平成20年 01月 31日現在)

利用者人数	17名	男性 5名	女性 12名
要介護1	2名	要介護2	3名
要介護3	6名	要介護4	5名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 81.3歳	最低 66歳	最高 91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	夏目クリニック・平野歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特質的には、この厳しい時期、法人代表の英断で、低料金で施設を提供していることである。法改正でグループホームが地域密着型を強く求められているが、運営推進会議の2ヶ月に1回の定期的な開催、地域住民との交流でその役割を果たしつつある。そのことを運営規程等に反映し、見直すことが望まれる。  
ホームの運営は、施設長のリーダーシップと職員の連携により、利用者本位に行われている。季節ごとに初詣・花見・夏には駐車場でのおすいか割り・かき氷・敬老会・紅葉・クリスマス会等、多彩な行事も催されている。開設してから6年目を迎えようとしており、市や同業者との連携を強化し、益々地域に開かれ、利用者や家族に愛されるホームに発展することを期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘された項目は、運営推進会議・地域住民との交流促進で、殆どどの課題は改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価に当たっては、自己評価表作成に職員全員で取り組んでくれた。外部評価の意義をよく理解し、皆でホームを良くしていこうという意欲の現れである。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヶ月に1回着実に開催され、ホームの見学や状況・行事等が報告されている。今まで知らなかったグループホームが紹介されて理解され、自治会・老人クラブとの連携等、何でも協力しようという意見が出されるようになった。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情・相談窓口が、重要事項説明書に明記されており、何時でも相談に応じる体制にある。担当者から毎月個人別に、血圧・体温・体重等の健康状態、食事・入浴・排泄等の介護状況、レクなどの日常生活、当月と次月の介護計画、その他連絡事項が報告され、家族からの意見を求めている。また、来訪時・TEL等でご意見をお聞きし、運営に生かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の蕎麦作りボランティアや中学生の職場体験等も受け入れている。地域の一人として自治会に加入し、会費や寄付にも応じている。運営推進会議等を通じて地域の各種の行事に対するお誘いがあり、積極的に参加し、交流を深めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設長を中心に、開設時に作成された「老いてもなを 輝き続ける 日々の暮らし」というホーム独自の立派な理念があり、実践されている。しかし、法改正に伴う「地域住民との交流」が、契約書等に反映されていなかった。	○	介護保険法改正以前に作成された契約書等の見直しが必要だと思われる。また、利用者に対する不適切な表現(痴呆)に付いても、再考されたい。
2	2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	立派な理念に誇りを持ち、絶えず確認しながらその実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入し、会費や寄付にも応じている。運営推進委員会等を通じて地域の各種の行事に対する誘いがあり、積極的に参加し、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<input type="checkbox"/> 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義をよく理解し、自己評価票作成に当たっては職員全員で取り組み、ホームを良くしていこうという意気込みが感じられた。		
5	8	<input type="checkbox"/> 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長の理解があり、運営推進会議は2ヶ月に1回着実に開催されている。ここでは、ホームの見学や状況・行事等が報告されている。グループホームに対する理解も深まり、老人クラブとの連携等、何でも協力しようという機運が高まっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携	毎月市の介護相談員を受け入れ、アドバイスを受けているが、協力してサービス向上に取り組む姿は見られなかった。	○	ホームの専門性を生かし、介護教室・講演会等の開催も検討願いたい。
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告	担当者から毎月個人別に、血圧・体温・体重等の健康状態、食事・入浴・排泄等の介護状況、レクなどの日常生活、当月と次月の介護計画、その他連絡事項が報告されており、家族からも喜ばれている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
8	15	○運営に関する家族等意見の反映	苦情・相談窓口が、重要事項説明書に明記されており、何時でも相談に応じる体制にある。毎月の報告・来訪時・TEL等でご意見をお聞きし、運営に生かしている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
9	18	○職員の異動等による影響への配慮	先ず職員の安定に配慮しており、1・2Fの職員を固定し、馴染みながら安心して介護が受けられるよう努力している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み	県・市・グループホーム協会等の研修案内には、極力参加するよう努めている。外部研修参加者の伝達教育、新人に対して担当者を決めてのOJT等、着実に行われている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
11	20	○同業者との交流を通じた向上	系列ホームの管理者同士の交流はあるが、近隣同業者とのネットワークはできていない。	○	市や地域包括支援センターとも相談し、管理者のみならず職員も含めて、交流や勉強会ができるような場作りの工夫をお願いしたい。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居して生活に慣れるまでは、ヘルパーが特別ついてお世話しながら関係を築いている。安心させる為に、かかりつけ医師の名前や家族の名前を会話の中で出したりして安心感をもたせ、ホームの雰囲気に慣れるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は、力に応じて食後の片付けや洗濯物をたたんだり掃除したりしている。会話も多く、介護者への感謝の言葉も聞かれた。また、入居者一人ひとりの良いところを書いた感謝状が贈られ、各部屋に飾られていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにおいて一人ひとりの思いや意向を把握すると共に、職員は、入居者の話に耳を傾けたり、表情や態度・しぐさに注意し、丁寧に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聴き、日常の職員による観察を元に、場合によっては主治医の意見を取り入れ、それらを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間を1週間から3ヶ月で設定し、状態の変化があった場合は、すぐに関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出支援として、外食、ドライブ、買い物、病院の受診送迎などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については入居時に利用者・家族の希望を尊重し、対応している。かかりつけ医がホームの協力医の場合は受診の送迎もして対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要時、かかりつけ医、家族、施設で話し合い、方針を決めているが、明確な方針・マニュアル等は定められていなかった。	○	明確な方針やマニュアルを作成し、重度化した場合や終末期のあり方については、できるだけ早期から話し合いの機会を作り、関係者全体の方針の統一を図られることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、目立って大きな声を出して介護したりすることがなく、目立たずさりげない言葉かけや対応をしている。個人情報についても、ファイルや記録の保管に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間など、個々のペースや希望に応じながら対応するよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援	入居者の力に応じて職員と共に準備や片付けをしている。職員も同じ食卓を囲み、介助しながら同じものを食べ家庭的な雰囲気がある。調理員が配属されホーム手作りの食事が作られていることは望ましいが、一緒に食べておらず、つながりが無い。	○	調理員が配属されていることは素晴らしいが、入居者とのつながりが少ないことは残念である。栄養を満たすだけでなく、食事がより楽しいものになるよう一緒に食べたり言葉を交わす機会をつくるなど、検討されたい。
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
23	57	○入浴を楽しむことができる支援	入居者の体調、状況にあわせて、気持ちよく入浴できるように支援している。夕食後などの希望にも応じている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者は、家事、畑仕事など一人ひとりの経験や力に応じてやっている。また写真の得意な入居者の方は、行事ごとにカメラマンとして活躍しているが、力を活かしている入居者が少ないように思われる。	○	入居者の中には写真や生け花、裁縫、農業などの経験を持ち、まだまだ力を引き出せそうな方もある。入居者は遠慮がちでもあるので、素材の提供や場作りを工夫し、入居者自ら希望してくるような環境を与えられるよう工夫されることを期待したい。
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
25	61	○日常的な外出支援	入居者の体調に配慮しながら、買い物の希望に応じて歩いてコンビニへ行ったり、ショッピングセンターなどドライブながら出かけている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践	ホーム前は交通量のある一般道路となっており、利用者の安全のために門扉は常時施錠されているが、門扉周囲のフェンスは圧迫感・拘束感のない高さとなっている。日中玄関錠は開放され、利用者は自由に出入りできる。扉を開けるとチャイムが鳴り利用者の様子を察知できるようにしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
27	71	○災害対策	年一回の防災訓練をホーム独自で行っている。運営推進委員会を通じて自治会との良い関係が築かれ、地域防災訓練参加に向け、情報交換が積極的に進められている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は各々の食卓と一緒に食事を摂りながら、一人ひとりの食事量や食べ方、好みなどを把握している。水分量は夏季には記録している。献立作成は職員が行っているが、栄養士や保健師など専門的な視点でのアドバイスや支援が得られていない。	○	定期的に管理栄養士や保健師など専門的な視点でのアドバイスを受けることで、さらにバランスのよい食事を提供されるよう期待したい。また、水分量も季節を問わず毎日記録されることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは明るくゆとりあるスペースとなっている。居室から食堂までの中間にはソファを配置したスペースがあり、気のあったもの同士が寄り合えるような、ホッとさせる居心地の良い小空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、愛用していたと思われる筆筒や鏡台などの家具や家族の写真など馴染みのものが置かれ、利用者が落ち着いて安心できる空間となるよう配慮されている。		